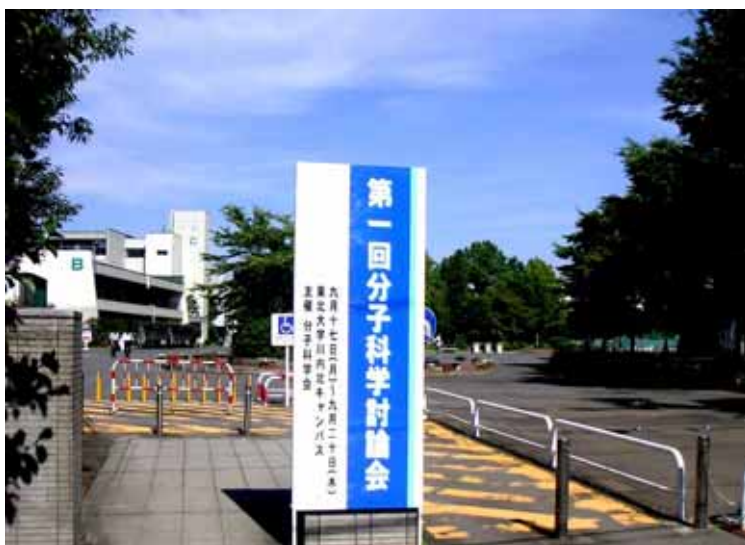


第1回分子科学討論会2007(仙台)報告



平成19年9月17日-20日の4日間、第1回分子科学討論会が、東北大学川内キャンパスを中心に開催されました。参加登録者数は、本討論会の前身として永年続けられてきました分子構造総合討論会の歴代の参加登録者数を上回る1290名を数え、非常に熱気に満ちた討論が行われ、第1回の分子科学討論会に相応しい大変充実した討論会になりました。

参加登録者数には地域差があり、首都圏では多く地方では少ないといった傾向がありますが、前回仙台で行われた1995年の分子構造総合討論会と比べると、登録者数が360名も多くなっており、分子科学が大いに発展してきていることを示しています。

今回の討論会は、分子構造総合討論会から分子科学討論会に名称を改めて新たな展開を図る記念すべき討論会であるということで、次の2つの記念行事が会期前日の9月16日に東北大学片平キャンパスさくらホールで行われました。

分子科学会発足記念講演会

分子科学会幹事の東京大学教授山内薫先生の司会で分子科学会発足記念講演会が行われました。はじめに分子構造総合討論会の最後の運営委員会代表幹事を務められました千葉大学教授西川恵子先生よりご挨拶があり、分子科学会の創設にともなって旧討論会のよさを継承しつつさらなる発展を目指して新しい討論会がスタートすることとなった経緯などについてお話がありました。続いて元分子科学研究所長、東北大学名誉教授の伊藤光男先生より、分子科学の益々の発展を目指した分子科学会の設立と分子科学討論会のスタートに、温かい祝辞と激励のお言葉をいただきました。次にお茶の水女子大学名誉教授の細矢治夫先生から、かつて分子科学研究会の委員長をされたご経験に基づき、分子科学研究所の設立をめぐるエピソードをまじえて、分子科学の発展の黎明期におけるさまざまなお話を頂戴しました。さらに元東京工業大学長、元学位授与機構長の田中郁三先生から、分子構造総合討論会が始まる以前の時代を振り返っていただき、分子構造から分子科学へと新しい展開を進めた人々の熱意に満ちたご活躍のことなど、これからの分子科学をリードする人々へ熱いメッセージが贈られました。おわりに分子科学研究会の最後の委員長、慶

応義塾大学教授中嶋敦先生より、分子科学学会は閉じられたけれども、その活動の主なものは分子科学会に引きつがれ、さらなる発展へと継承されたことが述べられ、分子科学会発足記念講演会がしめくられました。この講演会には、会場を埋め尽くす 100 名を超える参加者があり、講演された先生方のお話に度々賞賛と歓喜の笑声の沸きあがる大変な盛り上がりを見せました。ご経験豊かな先生方から次代を担うリーダーの方々へと心温まるバトンタッチが見事になされた講演会でありました。

第 1 回分子科学討論会前夜祭

分子科学会発足記念講演会に引き続き、東北大学片平さくらホールでの 1 階ロビーで、第 1 回の討論会の前夜祭が行われました。特別講演をお願いした C₆₀ 発見者の Kroto 先生ご夫妻をまじえ、100 名を超える方々が参加して、前夜祭に相応しいパーティーが催されました。分子科学会幹事の名古屋大学教授関一彦先生の司会で前夜祭がスタートし、元分子科学研究所長の井口洋夫先生をはじめ諸先生方からお祝辞を頂戴しました。Kroto 先生の乾杯の音頭と日本の歌のご披露があったほか、記念行事としてクス球割りがあるなど、なごやかな雰囲気の中で約 2 時間にわたるパーティーが催されました。



9 月 16 日の記念行事に続いて、17 日から 20 日までの 4 日間、以下のように第 1 回分子科学討論会の講演が川内キャンパスで行われ、19 日には仙台国際センターで特別講演と懇親会が行われました。

第 1 回分子科学討論会一般講演・招待講演

例年の分子構造総合討論会同様、口頭発表は 5 会場、ポスターセッションは毎日午後 100 分の時間をとって行われました。発表件数の合計は、申し込み時点で約 1000 件近くに達し、発表中止が若干は出たものの、例年の分子構造総合討論会を大幅に上回る数の発表が行われました。口頭発表会場では、多数の参加者により非常に活発な熱気のある討論が行われました。招待講演の先生方の発表は、プログラム編成によってミニシンポジウムに近い形で行われ、とりわけ多くの参加者を集め、活発な討議がありました。昨年の討論会で奨励賞を受賞された方々にも招待講演を行っていただき、活力あふれる講演をしていただきました。ポスター会場では分野や世代を越え学術的な交流が非常に活発に繰り上げられました。

第 1 回分子科学討論会特別講演（一般公開）

第 1 回分子科学討論会の特別講演は、9 月 19 日午後 5 時 30 分から、東北大学川内キャンパスに隣接した仙台国際センター大ホール(収容人数 1000 名)において行なわれました。今回の特別講演は、従来とは異なり、分子科学会が広く社会に開かれたものであることを

示す行事として初めて一般公開という形式をとり、日本化学会東北支部の協賛を得て行われ、開催地の仙台地域のマスコミによって広く報道されました。



1996年ノーベル化学賞を受賞された H.W. Kroto 先生（フロリダ州立大学教授）をお招きし、「ナノスペースアーキテクチャ」という演題でご講演していただきました。司会をしていただいた豊橋技術科学大学名誉教授大澤映二先生の「芳香族性」というご著書の中に予言されていた C_{60} のお話も含め、フラレンの発見のいきさつから最近のナノマテリアル分野への展開、国際的な教育普及活動などの多彩な内容を、イラストに満ち効果的なサウンドも入ったプレゼンテーションで、満場の聴衆を魅了する講演が行われました。

討論会参加者以外の聴衆が少なからずあったとはいえ、会場をほぼ埋め尽くす 800 名余りの聴衆を集め、大盛況の特別講演会となりました。

第 1 回分子科学討論会懇親会

特別講演につづいて、9月19日午後6時45分から仙台国際センターで、第1回分子科学討論会懇親会が、一般の参加者332名に来賓8名を合わせ340名もの多数の参加者を集めて、盛大に行われました。懇親会は以下の次第で進行し、地酒や郷土料理、海の幸などを楽しみつつ約2時間にわたり、新しく船出した分子科学討論会をお祝いする華やかな交歓会となりました。

- 司会者挨拶：開会（第1回分子科学討論会実行委員会委員 東北大学教授 河野裕彦）
- 第1回分子科学討論会実行委員会委員長挨拶（東北大学教授 大野公一）
- 分子科学会初代会長挨拶（千葉大学教授 西川恵子）
- 来賓挨拶（日本学士院院長 長倉三郎）
- 来賓挨拶（東北大学総長代理：国際交流担当理事 東北大学教授 庄子哲雄）
- 乾杯（元金沢大学学長 青野茂行）
- 来賓挨拶（1996年ノーベル化学賞受賞者 フロリダ州立大学教授 H.W. Kroto）
- 来賓挨拶（仙台市長 梅原克彦）
- 参加者代表挨拶（京都大学福井謙一記念研究センター リサーチリーダー 諸熊奎治）
- 次期分子科学討論会実行委員会委員長挨拶（九州大学教授 三好永作）

多くの参加者を得た本討論会は9月20日盛況のうちに閉会し、次回の九州での第2回討論会へとバトンが渡されました。

第1回分子科学討論会実行委員会
委員長 大野 公一